

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370406

研究課題名(和文) 『李卓吾先生批評三国志』諸本の研究

研究課題名(英文) The Study of Editions named by "Lizhuowu xiansheng piping Sanguozhi"

## 研究代表者

中川 諭 (NAKAGAWA, SATOSHI)

大東文化大学・文学部・教授

研究者番号：20261555

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：『三国志演義』の版本のうち、『李卓吾先生批評三国志』と題する本(李卓吾本)について、多角的に研究を行った。

現存する李卓吾本は、同版か異版かという観点から、大きく四つの系統に分けることができることを確定させた。また同版とされるいくつかの版本どうしの印刷の順序を明らかにした。そして従来用いられてきた簡称は、必ずしも正確ではないことも分かった。同版であるにもかかわらず封面上の書肆名が異なるという例も存在するからである。これは李卓吾本は数多くの書肆が版元を変えながら繰り返し出版されたことによるのだろう。

研究成果の概要(英文)：Among the editions of the "Romance of the Three Kingdoms", the book entitled "Li Zhuowu xiansheng piping Sanguozhi" (Editions of Li Zhuowu), was multifaceted research.

Existing Editions of Li Zhuowu, from the viewpoint of whether the plate or a different plate, was established that can be divided into four major lineages. Also revealed the order of printing of each other several printed books that are the same version. And abbreviation which have been used conventionally, was also found not always accurate. Because Publisher on despite sealing surface, which is the same version is also present example that different. Editions of Li Zhuowu was a number of publishers have been repeatedly published while changing the publisher.

研究分野：中国文学

キーワード：三国志演義 版本 李卓吾本 書誌学 明代の出版

## 1. 研究開始当初の背景

筆者は長年にわたって『三国志演義』の版本研究に従事してきた。通行本である毛宗崗本の成立過程からその研究が始まり、次いでその他のおよそ三十種あまりにわたる版本について検討を行った。その結果、『三国志演義』の諸版本は大きく三つの系統に分けられること、『三国志演義』にも、『水滸伝』や『西遊記』と同様に、繁本と簡本の違いが存在していることを明らかにして、『三国志演義』諸版本の系統図を作成した。これらの研究成果をまとめて、拙著『『三国志演義』版本の研究』(1998年、汲古書院)を上梓するに至った。この拙著の公刊により、申請者の『三国志演義』版本研究は、いちおうの結論を見ることとなった。しかし拙著で述べたことはあくまで“いちおうの結論”に過ぎず、その後も筆者のみならず、日中の研究者の間で活発に『三国志演義』の版本研究が行われるようになった。

ところで、『三国志演義』諸本の中に『李卓吾先生批評三国志』と題する版本群があり、世界各地に残存している。今書肆名によって挙げると、呉観明本・緑蔭堂本・藜光楼本・宝翰楼本・三槐堂本・遺香堂本がある。さらに出版書肆名がわからない本が台湾国家図書館・南京図書館・九州大学・市立米沢図書館などに蔵されている。これらはいずれも一百二十回で版式を同じくし、本文中(眉批の場合と本文行間の夾批の場合とがある)と各回末に李卓吾の批評を有する。このようにほぼ同じ形式をしているが、すべて同版というわけではなく、それぞれ翻刻・覆刻の関係にあることが知られている。しかしどの本がどの本と覆刻あるいは翻刻の関係にあるのか、詳しい状況についての研究はまだ行われていない。

筆者は拙著の中で、『李卓吾先生批評三国志』のうち呉観明本・緑蔭堂本・藜光楼本の三本を取り上げ、各本の文字の異同からこれら三本の先後関係を明らかにした。しかし拙著執筆当時は資料を収集するための十分な経済的背景がなかったためこの三本しか調査できず、その他の本については割愛せざるを得なかった。また魏安氏の著書『三国演義版本考』(1996年、上海古籍出版社)では『李卓吾先生批評三国志』各本を取り上げてはいるものの、それぞれの本の書誌情報と所在を記しているのみで、各本相互の関係については触れられていない。

そこで本研究において、現存する『李卓吾先生批評三国志』をできるだけ網羅的に調査し、この本を巡る諸問題を詳細に検討していくこととなった。

## 2. 研究の目的

### (1) 『李卓吾先生批評三国志』各本の相互関係、先後関係

上記のとおり、『李卓吾先生批評三国志』と題する本は数種類が現存し、それぞれ版を

異にしている。そのうち呉観明本・緑蔭堂本・藜光楼本については、拙著において先後関係を明らかにした。しかしそれ以外の本については、いまだ筆者を含めて研究が行われていない。現存する『李卓吾先生批評三国志』を網羅的に収集し、その相互関係・先後関係を明らかにする。

### (2) 現存する同版の本の先後関係

版を異にする本が数種類存在しているが、それらの中の一つの版本についても同版のものが幾つか存在している本もある。各本の同版の版本について、印刷の状態・版木の割れ目の状態から先後関係を明らかにする。

### (3) 『李卓吾先生批評三国志』に先行する周曰校本・夏振宇本との関係

『李卓吾先生批評三国志』に先行する同系統の版本として、周曰校本(甲本・乙本・丙本)と夏振宇本がある。周曰校本三種や夏振宇本と『李卓吾先生批評三国志』がどのような関係にあるのか、文字の異同を詳細に比較することをおして明らかにする。そして『李卓吾先生批評三国志』が成立した過程を考察する。

### (4) 「李卓吾先生批評」の小説流行の意義

『三国志演義』と同様に明代に成立し明代から清代にかけて流行した『水滸伝』・『西遊記』にも同様に「李卓吾先生批評」という名称を冠した版本が存在する。それらの作品の版本も視野に入れながら、以上のような考察をおして、『李卓吾先生批評三国志』が編纂され流行した時代的背景を考察する。

## 3. 研究の方法

### (1) 先行研究の整理

いかなる研究であっても、先行研究の問題点を整理することから出発するものであり、本研究も例外ではない。本研究に関連する中国古典小説関連・中国出版文化史関連の書籍・雑誌などによって、先行研究の問題点を整理しておく。

### (2) 資料の閲覧と収集

「版本研究」という本研究の性格上、これらの資料についてできるだけ原本に当たって調査を行う必要がある。また、各機関に蔵されている『李卓吾先生批評三国志』は当然ながら貴重書扱いなので、借り出して別の所蔵機関へ持参して原本同士を比較することは不可能である。よって可能な限り複写するか写真撮影するかして、資料の収集に努める。

### (3) 資料の整理とデジタルデータ化

複数の版本を手作業で比較するのは、かなり手間と労力の必要な作業である。そのような中、近年首都師範大学の周文業氏が「中国古代小説版本比較プログラム」を開発された。このプログラムを利用すれば、従来年単位の

時間が必要であった各版本の一字レベルでの比較が、わずか数十分から数時間程度で行うことができる。本研究を遂行するためにきわめて有効なプログラムである。このプログラムを利用して本研究を遂行できるように、収集した資料のデジタルデータ（画像データ・テキストデータ）を作成する。

また本研究では『三国志演義』の本文のみならず、本文につけられた批評も重要な研究対象である。批評の文章についてもデジタルデータ化を行う。幸い『李卓吾先生批評三国志』には活字本が出版されており、それをスキャナーとOCRソフトでデジタルデータ化し、原本（または複写・影印本）に基づいて校勘を行う。

#### (4) 各種『李卓吾先生批評三国志』の比較と分析

収集しデジタルデータ化を行った各種『李卓吾先生批評三国志』について、周文業氏が開発された版本比較プログラムを用いて具体的に比較する。「画像比対」プログラムを使用して、同時に三種類の本を比較し、文字の異同を確認していく。各本の版式が同じであるため、文字の異同は比較的容易に識別できると予想される。その文字の異同をもとにして、各種『李卓吾先生批評三国志』の相互関係・先後関係、『李卓吾先生批評三国志』と題する版本の原本の様相を考察していく。

#### (5) 『李卓吾先生批評三国志』とその他の『三国志演義』諸本との比較検討

『李卓吾先生批評三国志』の原本の様相が明らかになったら、それに基づいて、その他の『三国志演義』諸本との関係、特に同系統で関係の深いであろう周日校本・夏振宇本との関係を考察していく。これには周文業氏の版本比較プログラム「文本比対」プログラムを用いる。これによって、『李卓吾先生批評三国志』成立の過程を明らかにする。

#### (6) 研究成果の公表

国内で開催される学会・研究会はもとより、できるだけ海外で開かれる学会、たとえば中国古代小説戯曲文献与数字化国際学術研究会・明代文学国際学術研究会・中国『三国志演義』学会などに参加して、本研究の研究成果を報告する。国内だけに留まらず、海外に研究成果を発信してこそ、この分野の研究を大きく発展させることができると考えるからである。

中国の学会で報告し、中国の専門家から多くの助言をいただいて、それを論文執筆に生かしていく。そしてやはり日本国内の学術雑誌だけではなく、できるだけ中国で刊行される雑誌や論文集に投稿し、研究成果を公表する。

### 4. 研究成果

#### (1) 『李卓吾先生批評三国志』について

『李卓吾先生批評三国志』と題する版本は、これまで「呉観明本」「緑蔭堂本」「藜光楼本」「宝翰楼本」という名称で呼ばれ、また分類されてきた。果たしてこの分類は妥当なものなのであろうか。研究期間中に収集した資料に基づき、それらを詳細に比較し、同版・異版であること、また同版である本についてはその印刷の順序を確定させた。その結果、従来の四つの分類は、単に外見上(序文の有無、批評の付け方)のみならず、版本が同版か異版かという観点からみても妥当なものであることが確定できた。ただし台湾国家図書館に蔵される本は、いわゆる「呉観明本」と同版ではなく、「呉観明本」の直接の底本であることが判明した。

そして従来「呉観明本」「緑蔭堂本」「藜光楼本」と呼ばれた各本の印刷の順序を確定させた。すなわち、いわゆる「呉観明本」は、蓬左文庫本の印刷が最も早く、米沢図書館本がそれに次ぎ、そして静嘉堂文庫本の順で印刷された。いわゆる「緑蔭堂本」は、南京図書館本の印刷が最も早く、フランス本がそれに次ぎ、そして京大人本、九大図本の順で印刷された。いわゆる「藜光楼本」は、イェール大学本の印刷が最も早く、国家図書館本Aがそれに次ぎ、そして国家図書館本B、上海図書館本、都立中央図書館本の順で印刷され、早大本の印刷が最も遅い。

また、従来用いられてきた名称(簡称)は大きな問題があることが分かった。すなわち、たとえば「緑蔭堂本」と呼ばれてきた本と同版のものに、九州大学附属図書館蔵の「九思堂本」(封面の記載による)がある。また早稲田大学図書館蔵の「緑蔭堂本」は従来「緑蔭堂本」と呼ばれてきた本とは異版であり、むしろ「藜光楼本」と呼ばれた本と同版である。また「藜光楼本」と呼ばれてきた本と同版であっても、イェール大学図書館蔵本は「三槐堂/三楽齋/三才堂」の書肆名が記されている。また「宝翰楼本」と呼ばれてきた本と同版であるイェール大学図書館蔵本・北京師範大学図書館蔵本などには、書肆宝翰楼がこの本を出版したという明確な証拠は残っていない。これらのことから、『李卓吾先生批評三国志』は、書肆を次々と変えながら陸続と出版を続けていたのであろうことがわかった。またそのため従来の簡称は必ずしもふさわしいものではないので、それぞれ甲本・乙本・丙本・丁本と呼ぶことを提唱した。

(2) 『李卓吾先生批評三国志真本』について  
いわゆる「李卓吾本」の中に、書名を『李卓吾先生批評三国志真本』と題する版本がある。この本は、本文の版式が半葉十行行二十二字であること、本文は百二十回に分かれ、各回はさらに二則に分かれること、框郭上部に眉批があること、各回末に総評があることは、呉観明本など『李卓吾先生批評三国志』と同じである。一方、書名に「真本」の二文字が加えられている点が、その他の『李卓吾

先生批評三国志』と異なる(以下、「真本」と略称する)。また本文にも多少の文字の異同があり、批評については大きく異なるところが多い。いわゆる「李卓吾本」の中でもいささか異色の様相がうかがえる。

この本について、世界各地に蔵される同版と目される本を収集した。図版・本文とも完全に残っている本もあれば、本文だけ残っているもの、図版しか残っていないものもある。これらのうち、図版・本文ともに残っている本を中心に据えて、それぞれを詳細に比較検討し、印刷の順序を考察した。その結果、国家図書館本の印刷が最も早く、上海図書館本がそれに次ぎ、続いて北京師範大本、イェール大学本、京大本A、京大本Bの順序で印刷されたことが確定できた。

そして李卓吾本諸本で文字に異同のある個所について、真本の文字はどのようになっているかを検討した。その結果、「真本」はある特定の李卓吾本を底本としながらも、適宜修正を加えて編纂し直したのではないかと、そして「真本」の文字は台湾本・甲本に一致する例が多いことから、「真本」の底本は甲本系の李卓吾本ではないかということが分かった。

また真本には他の李卓吾本と比べて文字の異同が見られる。その個所について検討した結果、真本は「真本」の文章には底本の文章をより読みやすくしようとする姿勢が見て取れる。

また真本の批評は、他の李卓吾本と異なることが多い。たとえば貂蟬の呂布に対する心情など、真本独自の解釈を行っているのである。李卓吾甲・乙・丙本では、『三国志演義』本文の表面には現れないところまで深く読み取ろうとするところがある。一方の「真本」は、本文の文章表現を素直にそのまま理解しようとしている。ここにも「真本」の持つ一つの特徴を指摘することができる。

### (3) 夏振宇本『三国志通俗演義』について

李卓吾本に先行する版本であり、かつ密接な関係にあるであろう夏振宇本についての考察を行った。

夏振宇本は嘉靖本などと同様、確かに二十四卷系諸本に属する版本である。しかしその文章中には、周曰校乙本よりも古いと思われる文字が存在している。よってその底本は、周曰校乙本以前の版本、おそらく周曰校甲本かそれと密接な関係にある本ではないかと考えられる。また数年前に発見された朝鮮銅活字本は同じく二十四卷系諸本に属する版本ではあるが、夏振宇本とはそれほど近い関係にないことが分かった。

### (4) オーバーヘッド非接触式スキャナ SV600

2013年7月、富士通社より ScanSnap SV600 という革新的なスキャナが発売された。このスキャナは上部から光を当てて画像データを取り込むものであり、従来のスキャ

ナとは読み取り方式が根本的に異なる。さらに読み取り後パソコン上にて歪み修正などが可能である。この機能は、一般的な洋装本の書籍のみならず、和本や漢籍のような線装本の読み込みにこそ有効なのではないかと。SV600を用いて実際に漢籍の版本を読み取った実践例を紹介し、版本研究・書誌学研究と図書館資料のデジタル画像化の観点から、SV600活用の意義を述べる。

本研究において資料収集していく中で、本研究を始めとする版本研究においてきわめて有効な機器についての論文であり、本研究の派生的な成果である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計11件)

中川諭、『李卓吾先生批評三国志』について、『三國志研究』第十一号、査読有、2016年(掲載決定)

中川諭、『李卓吾先生批評三国志』版本四大系統名称的再定義 以美国耶鲁大学等图书馆藏珍本比较为基础、『河北学刊』、第36卷第1期、査読有、2016年、pp.77-82

中川諭、关于《李卓吾先生批评三国志》、『第十四届中国古代小说戏曲文献暨数字化国际研讨会论文集』、査読無、2015年、pp.22-40

中川諭、关于耶鲁大学所藏《三国志演义》、『明代文学思想与文学文献学术研讨会暨中国明代文学学会(筹)第十届年会论文集(戏曲小说卷)』、査読無、2015年、pp.459-473

中川諭・中里見敬、図書館におけるオーバーヘッド非接触式スキャナ SV600 の活用 貴重書の電子化と保存のために、『九州大学附属図書館研究開発室年報』2013/2014、査読無、2014年、pp.1-7

中川諭、周曰校刊『三国志演義』の挿図について、瀧本弘之・大塚秀高編『中国古典文学と挿画文化』、勉誠出版、2014年、pp.17-32

中川諭、夏振宇本『三国志通俗演義』について、『三國志研究』第八号、査読有、2013年、pp.81-92

中川諭、頂置非接触式扫描仪和中国古代小说版本研究、『第十二届中国古代小说・戏曲文献暨数字化国际研讨会论文集』、査読無、2013年、pp.439-442

中川諭、关于夏振宇本《三国志通俗演义》、『第十二届中国古代小说・戏曲文献暨数字化国际研讨会论文集』、査読無、2013年、

pp.48-57

中川諭、关于九州大学所藏《三国志演义》两种、『第十二届中国古代小说・戏曲文献暨数字化国际研讨会论文集』、査読無、2013年、pp.24-28

中川諭、周曰校刊《三国志演义》插图考察、『中国明代文学学会第九届年会暨 2013 年明代文学国际学术研讨会论文集』、査読無、2013 年、pp.別冊 1-12

〔学会発表〕(計 6 件)

中川諭、关于《李卓吾先生批评三国志》、第十四届中国古代小说戏曲文献暨数字化国际研讨会、2015 年 8 月 22 日、廊坊師範学院、廊坊(中国)(中国語で発表)

中川諭、关于耶鲁大学所藏《三国志演义》、明代文学思想与文学文献学术研讨会暨中国明代文学学会(筹)第十届年会、2015 年 8 月 21 日、稻香湖景酒店(首都師範大学主催)北京(中国)(中国語で発表)

中川諭、顶置非接触式扫描仪和中国古代小说版本研究、第十二届中国古代小说・戏曲文献与数字化研讨会、2013 年 8 月 28 日、復旦大学、上海(中国)(中国語で発表)

中川諭、关于夏振宇本《三国志通俗演义》、第十二届中国古代小说・戏曲文献与数字化研讨会 2013 年 8 月 28 日、復旦大学、上海(中国)(中国語で発表)

中川諭、关于九州大学所藏《三国志演义》两种、第十二届中国古代小说・戏曲文献与数字化研讨会 2013 年 8 月 28 日、復旦大学、上海(中国)(中国語で発表)

中川諭、周曰校刊《三国志演义》插图考察、明代文学学会(筹)第九届年会暨 2013 年明代文学国际学术研讨会、2013 年 8 月 25 日、復旦大学、上海(中国)(中国語で発表)

〔図書〕(計 3 件)

三国志学会編、狩野直禎先生米寿記念三国志論集、2016 年(9 月刊行予定)、中川諭、『李卓吾先生批評三国志真本』について(掲載決定、総ページ数・担当ページ数未定)

後藤裕也・小林瑞恵・高橋康浩・中川諭、勉誠出版、武将で読む三国志演義読本、2014 年、総 446 頁、P1~33、『三国志演義』の成立と展開、P264~372、張遼・許褚

瀧本弘之・大塚秀高編、勉誠出版、中国古典文学と挿画文化、2014 年、総 223 頁、P17-32、中川諭、周曰校刊『三国志演義』の挿図について

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中川 諭 (NAKAGAWA, Satoshi)  
大東文化大学・文学部・教授  
研究者番号：20261555

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：